

目 次

はじめに v

第1章 様態と結果って何? 1

- 1.1. はじめに 1
- 1.2. Rappaport Hovav and Levin (1998) 5
- 1.3. Levin and Rappaport Hovav (2013) 9
- 1.4. 移動動詞の様態と結果 11
- 1.5. まとめ 13

第2章 動詞の意味を割り算する! 18

- 2.1. はじめに 18
- 2.2. 生成意味論の遺産 18
- 2.3. 語彙分解と2種類の意味構成要素 22
- 2.4. 2種類の意味構成要素をどう表示するか 25
- 2.5. 状態変化動詞の事象スキーマ 29
- 2.6. 様態動詞の事象スキーマ 31
- 2.7. まとめ 37

第3章 参加者は動詞が描く場面の登場人物だ! 39

- 3.1. はじめに 39
- 3.2. 動詞の参加者と項の数 39
- 3.3. 移動様態動詞の事象スキーマ 42
- 3.4. 移動結果動詞(有方向移動動詞)の事象スキーマ 47

3.5.	他動詞用法の移動結果動詞（有方向移動動詞）	54
第4章	事象スキーマへ語根を入れる！	60
4.1.	はじめに	60
4.2.	様態動詞の意味表示と語根項	60
4.3.	事象スキーマと意味表示のここまでのまとめ	63
4.4.	他の到達動詞（「...になる」動詞）と予備段階	68
4.5.	予備段階を構成する動詞の事象スキーマ	74
4.6.	推論される結果（よくある思い込み!?)	76
第5章	状態動詞も見ていこう！	79
5.1.	はじめに	79
5.2.	状態動詞とは何か	79
5.2.1.	参加者が一つの状態動詞	81
5.2.2.	参加者が二つの状態動詞	84
5.3.	状態動詞の起動相的解釈	89
5.4.	知覚動詞の特殊性	95
5.5.	起動相的解釈の事象スキーマ	97
第6章	事象スキーマと語根ってどれだけあるの？	101
6.1.	はじめに	101
6.2.	事象スキーマ（事象構造鋳型）とその特性	101
6.3.	語根とその特性	106
6.4.	Rappaport Hovav and Levin による規範的具現化規則	113
6.5.	移動結果動詞の規範的具現化規則	118
6.6.	状態動詞の規範的具現化規則	120
6.7.	様態・結果の相補性と規範的具現化規則	122
6.8.	4種類の事象スキーマと7種類の意味表示パターン	124

第7章 移動様態動詞 + 前置詞句はどうなるの? 130

- 7.1. はじめに 130
- 7.2. 着点を表す前置詞句の事象スキーマと意味表示 131
- 7.3. 移動様態動詞 + 前置詞句は使役動詞か? 134
- 7.4. 下位事象一つにつき項一つという条件 137
- 7.5. 移動様態動詞は使役動詞になるのか? 140
- 7.6. 事象の同一認定と移動様態動詞 142
- 7.7. 移動動詞の類型論と日本語の表現方法 146
 - 7.7.1. 移動事象全体 (マクロ事象) の意味的構成要素 147
 - 7.7.2. 移動事象を表す統語構造の構成要素 150
 - 7.7.3. 動詞枠付け言語と衛星枠付け言語 151
- 7.8. 写像調整の仕組みとしての事象の同一認定 153

第8章 状態変化動詞の自動詞形はどうするの? 156

- 8.1. はじめに 156
- 8.2. 状態変化動詞と使役交替 157
- 8.3. 意味表示と自動詞・他動詞の意味的関連 159
- 8.4. 派生分析と方向性 162
 - 8.4.1. Levin and Rappaport Hovav (1995) 162
 - 8.4.2. Rappaport Hovav and Levin (2012) & Rappaport Hovav (2014) 166
 - 8.4.3. 派生の方向性とそれに関わる問題 169
- 8.5. 非派生的なアプローチはありなの? 172
- 8.6. おわりに 178

第9章 非派生的な事象スキーマへの組み込み ≡ 構文文法だ! 180

- 9.1. はじめに 180
- 9.2. 使役交替と語根の事象スキーマへの組み込み 181
- 9.3. Härtl (2003) による使役交替の意味的条件 183

- 9.4. 具体例における意味的条件の反映 188
- 9.5. 語根のフレーム意味論とプロファイル 191

おわりに	199
参考文献	201
索引	207